

1. 応募の動機・理由を簡単にご記入ください。

本申請への応募動機は、住生活の「住まいと社会」の領域において「生徒の心に火をつける」活動内容を開発するためである。

町田市立南成瀬中学校（以下「本校」）は東京都町田市に所在する全校生徒数 500 名程度の中規模公立校である。申請者は、昨年度本校にて個別最適な学び・協働的な学びをテーマに技術・家庭科（家庭分野）にて住生活の授業を実践した。その結果、「家族の安全を考えて問題を解決する思考力」や「インターネットや書籍、通人や教員との対話など、自分に合った学習方略を選択して粘り強く学習を遂行する能力」を育成することができた。つまり、学習の枠組みを工夫することで学習の効果を高めることができた。

今年度は、特に家庭分野 B 衣食住の生活「住生活」の「人と住まい」の内容を改善することで主体的・対話的で深い学びのさらなる実現を図りたい。具体的には、次の 3 点を課題とする。

- ・学習の個性化において、単に生徒の興味関心に基づいた探求をさせるのではなく、条件に「安全」、特に「防災」を取り入れる。
- ・「問題に気づく」学習過程において、町田市役所と連携し、家庭科の授業内で地震体験学習を行う。
- ・「問題の探求」の学習過程において各自自治体と連携し、町田市防災安全課の職員や被災者等に「オンライン先生」として授業に参加してもらう。

2. 学習予定の概要を（イ）（ロ）に触れながら以下の A. B. C. 3 点について記入してください。

- （イ）気づき（児童生徒に気づきをどう促すか）
- （ロ）自ら調べ考える（児童生徒にどう考えさせるか）

A. 中心となる活動

- ①起震車を活用した地震体験学習により住生活の中の問題を「防災」「安全」の側面から気づく。【感性】
- ②多様な学習方略の中から自分の学習目標を達成するために効果なものを主体的に選択する（司書教諭・市役所防災安全課職員や被災者などのオンライン先生・友人・教員・書籍・インターネット、など）。【理解・認識】【思考・判断】
- ③「今よりちょっといい住生活」の実現のためにこれからの生活で実践することをまとめる。【表現・行動・実践】

参考：住総研 HP

(<http://www.jh-a.or.jp/jyuuseikatu/contents/zyuukyoubu/02.html>)

【主な使用機材】

起震車（町田市役所防災安全課から提供）、
65 インチモニター（生徒がクロームブックを使って作成した資料を投影するために使用する）

B. 授業の狙いと特徴（住生活向上の視点を含めてお書きください）

(1) 家族の生活と住空間の関わりが分かり、住居の基本的な機能や家庭内事故の防ぎ方など、家族の安全を考えた住空間の整え方について理解する。

(2) 家族の安全を考えた住生活の整え方などについて問題を見だして課題を設定し、解決策を構想するなどして課題を解決する力を身に付ける。

(3) よりよい住生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し想像し、実践しようとする。



写真 使用する起震車

引用：災害から市民をまもるしごと/町田市ホームページ
(<https://www.city.machida.tokyo.jp/kids/works/kurashi/anzaen/sai@sai.html>)

C. 学習の流れ（指導計画）

時	○目標	<学習指導要領解説に示された家庭分野の学習過程> ・学習活動 【気づく・自ら調べる類型】※補足
1	○地震体験を通して自分の思う「ちょっといい住生活」と「安全」を両立する上での問題を特定する。	<生活の課題発見> ・地震体験をして、感じたことを整理する。【気づく】 ・今日よりちょっといい住生活と安全を両立する上での問題に気づく。【気づく】 ・マンダラートを見ながら、仮課題を修正する。【気づく】
2 3	○家族の生活と住空間の関わりや、住居の基本的な機能について理解する。	<生活の課題発見> ・住まいの基本的な機能を知る。【気づく】 ・基本的な機能と照らし合わせて、「今日よりちょっといい住生活」について考えるポイント（安全、健康、利便性、快適、共生、持続可能性）を確認する。【気づく】 ・「今日よりちょっといい住生活」に向けて、マンダラートを書き、仮課題を設定する。【気づく】【自ら調べる】

4	○仮課題について話し合い、質を高めて課題を設定する。	<p><生活の課題発見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮課題について話し合う。〔気づく〕 ・4人班編成で、班を移動させ、メンバーを変えて2回話し合う。 ・ポイントをおさえて質問する。 <p>※質問の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ①発表者の考えを掘り深める質問、②説明が足りないところを補う質問、③新しい考えを見つける質問 <ul style="list-style-type: none"> ・解決すべき課題を決定する。
5	○課題解決のための解決策を構想する。	<p><課題解決に向けた実践活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題について、解決策を構想する。〔自ら調べる〕 <p>※学習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ①一人1台端末で調べる、②クラスメイトに聞く、③教科書や本を使う、④司書教諭のレファレンスサービスを活用する、⑤市役所防災安全課職員や被災者などのオンライン先生に相談する、⑥教員による「問いかけ」の指導を受ける <p>※課題解決に向けた実践活動の方法は生徒自身が自分にとって当てはまりの良いものを選択する。</p>
6	○これからの生活に向けて発見した問題について、工夫し想像し、実践しようとする。	<p><実践活動の評価・改善></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題や解決策を班で共有する。〔気づく〕 <p>※班内での共有手順</p> <ul style="list-style-type: none"> ①Google スライドを見せながら共有する、②4人班で班を移動させ、メンバーを変えて2回共有する、③共有の際は、一言コメントをもらう。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返り、今日よりちょっといい住生活を実現するために探究したと事を通して、もう一度自分の住生活を見つめ直す。〔気づく〕 ・学習のスタートからの変化に気づく。 ・自身の住生活における他の問題を発見し、それについて工夫し創造し、考えを深める。 ・今の自分に実践できることを考え、全体で共有する。

3. 授業とガイドライン「住教育の領域」との関りについてお書きください。

「人と住まい」は、「住まいの安全・安心、家族の語らいやくつろぎ・団らんなど、住まいの機能や構造、生活との関係」を学習する領域である。上述の通り、本実践は防災に焦点を当て、住まいの機能や構造、住生活の様式について深く探求する学習過程となっている。

なお、住生活における防災教育は「住まいと社会（住生活に必要なライフライン、地域の中での住まい、まちの良好な景観など）」とも密接に関連するが、本実践は生徒が生活者の視点から住まいの在り方について考えるため、申請区分を「人と住まい」とした。

その他特記事項がありましたらお書きください。

本実践は令和4年度東京都多摩地区教育推進委員会報告会にて報告した実践事例「衣食住の生活～今日よりちょっといい住生活！～」を貴助成の趣旨に沿って発展させるものである。学習過程は、令和4年度の段階で、本助成がキーワードとしている「主体的・対話的で深い学び」、「知識伝達型教育」から「探究創出型教育」へ、「アクションリサーチ」、を達成していると考えられるが、本申請では、内容面を工夫することにより、これらのコンセプトをより高次に達成することをねらいとした。

〔参考サイト〕

東京都多摩地区教育推進委員会 第28次計画（通算第49年次）報告書

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実：ICTを活用した新たな学習活動を通して

pp. 38-39

chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcgiclfindmkaj/https://www.tamajimu.metro.tokyo.lg.jp/tamasui/files/04tamasui_report.pdf

※ページが複数枚になってもかまいません。

※他に添付資料がありましたらお付けください。